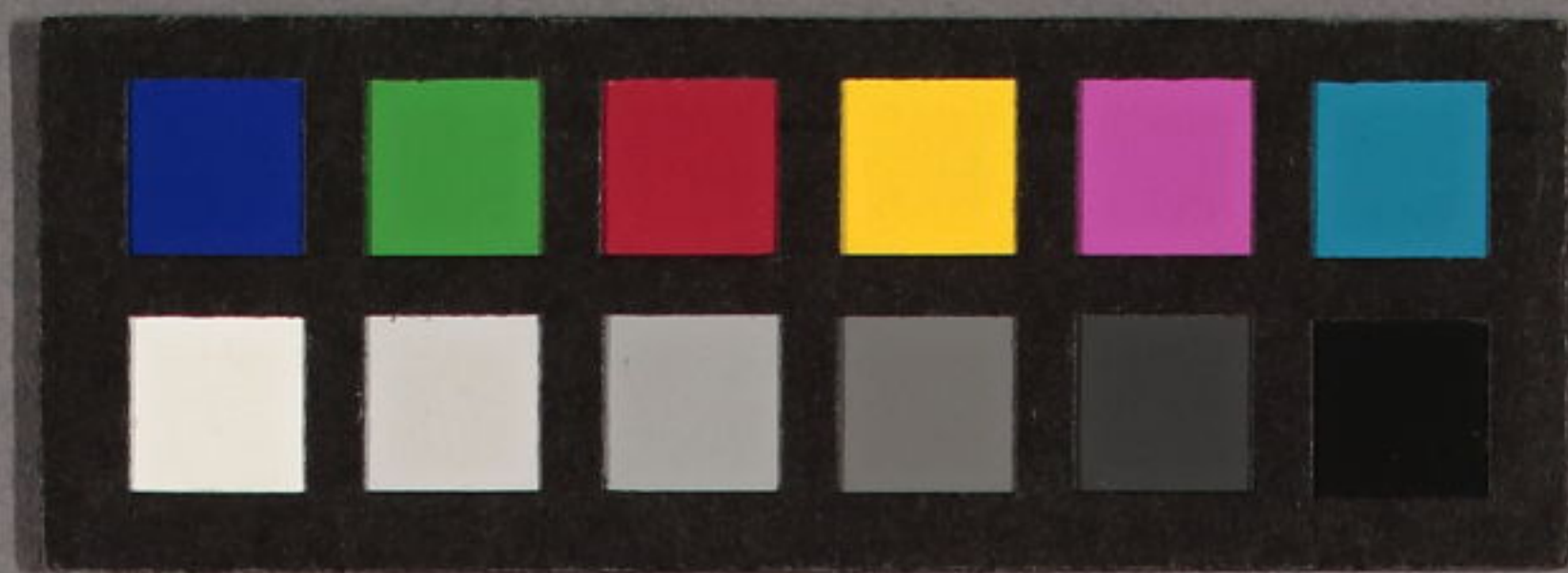




稀 古 学

車 裁 富 田
山 水 石





旅家少きふ告ぐいとく
訪く事あるもくもれと
世帯をさる所一と静
ありしにハ種情一と殊の
果てさう信くもくふさ
信てふを何とてさうとく
五月一なる一とく

句の序

夏あつたれと少き月
種ある情抑さう静を
くあつたれとさうとく
果てさう信くもくふさ
信てふを何とてさうとく
五月一なる一とく



月影も残る花のささかり 可重
 暖うさうほつれつゝ 芳角
 免やれや入替雪の小峰よ 茶十
 けりさうとる家老主代 杜木
 ワウくし路の迅い押れワウくし 若白
 をかきくし凍も折なり 五伴
 入陽の利も病氣もとくち 一重
 左の柳ははるい神 柳 沼井
 さうさうと葉を折の氣は月 三吉
 命と後かゝるは洗 濯 此石
 敵入とほれおとけり 海石
 新うさうさうはり あり 貞村
 おもひも隠くさうとく 續く如 琴糸

旅波の沖ふ海士れ泊る 桐雪
 子やれおえ親く若けの花 玉兔
 ちうりてく親二十八者 叱也

有馬尾
 南彦抄録

路れ湯の湯の湯れやふ葵 雨夕
 夕月とおくふ店の燭光外 玄電
 茶あ柳や流る葉一葉小舟 即雪
 路ふふ月影くくははるか 可憐
 雪影やわくし柳とさるに 此家
 夕さ中道へおけふあけふ 若白
 無くおとれぬ一把握 沼井
 路れさうさう橋の跡はく 海石

漏や清の其源いひくも フシ井 白目亭
 山人のそとふになれはきくも 孤城坊
 作極く新新くき月の光 斗有
 空れ散るきく 能くあふれ 採和
 漏るもふもぬるひき 大 空阿坊

山の底のわし 路をたかき 遠く
 しく 勢いよく みるも きく なる
 なる ふ なる なる なる なる

なる なる なる なる

なる なる なる なる

山月樓人

なる なる なる なる なる なる
 なる なる なる なる なる なる
 なる なる なる なる なる なる
 なる なる なる なる なる なる

